

## 第1号様式

平成28年5月26日

(宛先) 右京区長

## 右京区まちづくり支援制度支援事業申請書

(団体名) 特定非営利活動法人  
京・ものづくり塾和らいふ  
(代表役職名) 理事長  
(氏名) 松下 崇 印

右京区まちづくり支援制度支援事業について、関係書類を添えて次のとおり助成金交付を申請します。

1 事業名	協働して伝統と文化を楽しむまちづくりプロジェクト		
2 申請額	500,000円 (予算書の助成金の額)		
3 事業完了時期	平成29年3月		
4 添付書類	<input checked="" type="checkbox"/>	計画書(第2号様式)	
	<input checked="" type="checkbox"/>	予算書(第3号様式)	
	<input checked="" type="checkbox"/>	役員名簿及び団体・グループの規約等	
	<input checked="" type="checkbox"/>	事前着手届(第12号様式) <必要に応じて添付>	

## &lt;団体の概要&gt;

設立時期	平成19年6月		構成人数	17人
活動の目的及び特色	<p>定款第3条(目的) この法人は、市民、事業者、民間団体等が協働して、伝統産業・和装産業のものづくり、優れた技術の保存と普及、人材の育成等の振興事業に取り組み、和装産業を世界に誇るべき日本の伝統的な和の文化および芸術を醸し出す産業にし、産業を通して地域経済の創造と発展に寄与することを目的とする。</p>			
主な活動内容	<p>前年度は学校教育への地域からの参加として小学校9校(10日間)、児童の健全育成や子育て支援として児童館6館(6日間)、その他担任教師事前研修8回の体験教室を行い、1,000人以上の参加を得ました。今年度は七条小学校、七条第三小学校、山階南小学校、葛野児童館、太秦児童館から新たなる要請があり、また、参観日のスケジュールを合わせて実施する小学校も2校あり、ますます拡大する傾向にあります。</p> <p>昨年度から新たな展開として、京都府総務部府有資産活用課「府庁旧本館利活用応援ネット」に参加し、みやこメッセで35年間展示会を開催している「友労染展実行委員会」と協働して、府庁旧本館「観芸祭」で体験教室を行い、今年度は既に4月3日同所で「観桜祭」にも参加しています。同実行委員会との協働は右京区役所の「MACHIKO」というスペースでの市民を対象とした体験教室も実施するなど、他団体との協働も拡大する傾向にあります。</p> <p>さらに昨年から、待賢小学校(廃校利用)にある「リセ・フランス・ド・京都(Lycée français de Kyoto)」というフランス教育省認可のフランス人学校で子どもたちを対象に体験教室を開くなど、和の文化体験活動が国際的にも拡がったものとなりました。</p>			
これまでの補助金等の実績	<p>① 右京区まちづくり支援制度助成金 500,000円 (平成28年 京都市指令右地第18号) ② 京都府地域力再生プロジェクト支援事業交付金 350,000円 (平成28年 7府推第395号)</p>			
連絡先	団体	所在地	(〒615-0852) 京都市右京区西京極西川町28-1	
		電話	075-315-3240	FAX 075-315-3239
				Mail kyo-wa-life@msn.com

		WEB サイト (ホームページ) ※開設している場合は記入してください	http://kyowalife.sharepoint.com/		
担当者 (※)	フリガナ	九矢 幸一	郵送先	(〒615-0852)	
	氏名	九矢 幸一		京都市右京区西京極西川町28-1	
	電話	090-3940-7566	FAX	075-315-3239	Mail kyotokuya@msn.com

※ 代表者、団体の所在地以外に連絡・対応できる方がいる場合は、連絡に必要な項目を御記入ください。

## 第2号様式

## 計画書

助成金区分 (該当欄をチェック 又は■)	<input checked="" type="checkbox"/> 地域力向上枠 <input type="checkbox"/> 大学・学生枠	
団体名	特定非営利活動法人 京・ものづくり塾和らいふ	
事業名	協働して伝統と文化を楽しむまちづくりプロジェクト	
地域課題・ 事業の目的	<p>近年嵐山、清水寺、伏見稻荷など京都の観光地では、着物姿の外国人観光客が激増し、単なる「名所旧跡観光」から日本文化（和の文化）に直接触れる「体験型観光」が増え、文化庁の京都誘致や2020年オリンピック（スポーツの祭典であると同時に文化の祭典でもある。）開催など、「和の文化・ふれあい教室（西陣・友禅実演・体験教室）」は、観光産業だけでなく、文化産業としてまちに賑わいと誇りを取り戻すうえでますますその必要性が期待されるところです。</p> <p>私たちが取り組んできた、伝統産業や地域産業を通じての「学校教育への地域からの参加」や「地域ぐるみの子育て支援」が、共通する課題に取り組む「産・官・学・民」の協働による事業へと進化すれば、さらに大きな効果が現れるものと期待出来ます。</p>	
事業内容	<p>昨年度から、新たに「協働して伝統と文化を楽しむまちづくり」を課題として、右京区内での協働を進め、サンサ右京・「マチコ」を活用した型染、草木染、藍染等の開催を軸に、「産官学民」の協働を模索して伝統と文化を楽しむまちづくりをすすめてきました。</p> <p>今年度は七条小学校、七条第三小学校、山階南小学校、葛野児童館、太秦児童館から新たな要請があり、また、参観日のスケジュールを合わせて実施する小学校も2校あり、ますます拡大する傾向にあります。</p> <p>また、今年度は「MACHIKO」を活用した広く右京区民を対象とした型染、草木染、藍染等の開催回数をさらに増やします。</p> <p>また、小学校、児童館での「伝統産業体験教室」の展開は、今年度は安井児童館で3年ぶりの体験教室の再開や、新たに葛野児童館での開催も予定されています。また、右京区内の小学校の教師の転出赴任先の小学校からも、新たに「体験教室」の開催を要請され、今年度の大きな特等は参観日での授業に体験教室を取り入れる小学校も3校予定されています。また国際活動として、「リセ・フランス・ド京都」での体験教室も予定しています。</p>	
前年度の課題 (昨年度に助成金 を活用している 場合のみ記入)	<p>前年度は学校教育への地域からの参加として小学校9校（10日間）、児童の健全育成や子育て支援として児童館6館（6日間）、その他担任教師事前研修8回の体験教室を行い、1,000人以上の参加を得ました。</p> <p>昨年度から新たな展開として、京都府総務部府有資産活用課「府庁旧本館利活用応援ネット」に参加し、みやこメッセで35年間展示会を開催している「友労染展実行委員会」と協働して、府庁旧本館「観芸祭」で体験教室を行い、今年度は既に4月3日同所で「観桜祭」にも参加しています。同実行委員会との協働は右京区役所の「MACHIKO」というスペースでの市民を対象とした体験教室も実施するなど、他団体との協働も拡大する傾向に有ります。</p> <p>さらに昨年から、待賢小学校（廃校利用）にある「リセ・フランス・ド・京都（Lycée français de Kyoto）」というフランス教育省認可のフランス人学校で子どもたちを対象に体験教室を開くなど、和の文化体験活動が国際的にも拡がったものとなりました。</p>	
課題解決 に向けた 工夫点等	課題は、年々拡大する実施箇所への人的・財政的対応（後継者と活動財源）ならびに廃校などを利活用した京都の総合的な伝統産業の体験が出来る常設的な文化施設を実現することが出来れば、人的・財政的課題解決に大きく近づくと考えられる。	
スケジュール	時期	実施内容
	①年3回予定	「MACHIKO」を活用した協働を拡げ、賑わいのあるまちづくり事業
	②2016/07/13	嵐山小学校体験教室(年生2クラス 33人×2クラス)
	③2016/07/27	太秦児童館体験教室（小学校1年生～3年生）
	④2016/08/17	葛野児童館体験教室①( 3年生～6年生)
	⑤2016/08/23	西京極小学校担任教師事前研修葛
	⑥2016/09/06	野児童館体験教室②(中学生と母親)
	⑦2016/09/17	向上社児童館体験教室
	⑧2016/09/30	安井児童館体験教室
	⑨2016/10/01	葛野児童館体験教室③(学生4年生～6年生)
	⑩2016/10/03	梅津児童館体験教室(幼児と母親)

	<p>⑪2016/10/08 ⑫2016/10/12-13 ⑬日程調整中 ⑭日程調整中 ⑮日程調整中 ⑯日程調整中 ⑰日程調整中 上記は右京区のみ</p>	<p>西京極児童館体験教室(幼児と母親) 西京極小学校体験教室（5年生4クラス） 嵯峨児童館体験教室 南太秦小学校体験教室 西院小学校体験教室 宇多野小学校体験教室 葛野小学校体験教室 他行政区で小学校5校、児童館2館、行政施設3施設、各種学校1校実施予定</p>
右京区基本計画との関連について (具体的な取組内容に該当する点、計画推進のため期待できる効果など)		「多様な特性を持つ市街地や集落、農地や森林等が存在する右京区にあって、地域コミュニティを維持することは重要な課題であり、地域住民自身が地域の自然、歴史、文化を学び、さらに理解を深めていく取組を進めていく」とした市民憲章の精神は、私たちが進める京都の伝統産業・伝統文化の魅力を、体験教室を通じて新たな地域の魅力を自ら発信する取組を進めることで、「地域で暮らし続けていく誇りと自信を深め、地域の自然、歴史、文化を将来に受け継いでいく意識をさらに意欲を高めていく」と確信しています。
助成金の活用による事業の効果		<ul style="list-style-type: none"> <li>・実施している小学校では、学校教育における「学校・家庭・地域」という三つの教育主体の一つとして、「地域からの学校教育への参加」として総合学習のなかで位置づけられ、右京区（西京極小学校）から始まった本事業も、今や北区、上京区、下京区、西京区、左京区、山科区の7行政区にまで拡大しています。</li> <li>・特に今日、学習指導要領においては、理数教育の充実とともに、伝統や文化に関する教育の充実も謳われています。また、体験型アクティブラーニングの教育効果の重要性も言われています。 私たちの実施する「体験教室」はこれらの要請に応え、「冒頭プレゼン・体験・ふり返り・レポート提出」などのプログラムは、これらの要請に合致するものとして取り組んで頂いています。</li> <li>・児童館は児童福祉法上0歳～18歳未満の子どもに「健全な遊びを与え、その健康を増進し、または情操を豊かにすることを目的として設置される児童厚生施設」として、「和の文化体験教室」がもたらす本来の児童館機能をさらに豊に発展させることが出来ます。</li> <li>・右京区役所スペース「MACHIKO」、京都府旧本館「観桜祭」「観芸祭」で取り組む「体験教室」には多くの団体との協働によって不特定多数の多くの市民の参加があります。また、今日外国人観光客にはきもの姿が目立ち、和の文化への「体験型観光」が増加しています。この「体験」と「和の文化」というキーワードは教育や観光だけでなく、今後の経済発展にとっても間違ひなく影響力を發揮することが推察されます。</li> </ul>